

# 2023年度 法科大学院

## 第1期入学試験問題

### 4時限

## 民事訴訟法・刑事訴訟法

### (論文式)

## 試験時間合計 80分

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## [民事訴訟法]

団体であるXは、Yを被告として、貸金返還を求める訴え（以下「前訴」という。）を提起したが、裁判所は、Xには代表の方法、総会の運営、財産の管理など団体としての組織が整っていないとして、訴え却下の判決をした。

- 1 裁判所が訴え却下判決をした理由を説明しなさい。
- 2 Xは、訴え却下判決の確定後、前記の組織が整わない状態を改めたと称して、Yを被告として再び前訴と同一内容の訴えを提起したとする（以下「後訴」という。）。この場合、裁判所は後訴につきどのような審理を行い、どのような判決をするべきかを論じなさい。

（解答は全て解答用紙に記入すること）

## [刑事訴訟法]

A裁判所のB裁判官は、令和4年7月1日に起訴された被告人の窃盗事件（以下、「本事件」という）を担当している。本事件の第1回公判期日は令和4年8月1日と指定されている。刑事訴訟法は、B裁判官の本事件に関する予断を排除するための様々な規定を置いている。

最初に、予断排除の原則の意義を述べた上で、下記の語句群の全ての語句を使用し、本事件の起訴から第1回公判期日の証拠調べ手続まで、刑事訴訟法が同原則についてどのような規定を置いているかを述べなさい。なお、必ず、刑事訴訟法の条文を引用すること。

語句群 起訴状一本主義、余事記載、勾留に関する処分、冒頭陳述、自白の取調請求

以 上